明海大学浦安キャンパス教育後援会会報

明海大学
MEIKAI UNIVERSITY

潮風

浦安キャンパス教育後援会

2008年度 地区教育懇談会

高いリピート率 「大学について知るよい機会」と好評

大学と保護者、そして保護者同士の情報交換・交流の場である「教育懇談会」が、今年度も7会場で開催された。

この懇談会は教育後援会が最も力を入れている事業のひとつ。日々、学生と接している先生方や職員と保護者とが、ひざを交えて話し合える貴重な場とあって、参加者に好評だ。

アンケートによると、参加者でもっとも多いのは2年生の保護者。そのうち70%が2回目の出席。その他の学年とあわせても、68%の人が入学以来毎年参加している常連で、リピート率の高さがうかがえる（3面アンケート結果参照）。

教育懇談会とは？ 3部構成で開催

教育懇談会は基本的に3部構成で開催されている。

まずは全員が一堂に会しての全体会。大学の現状について聞くことができる。

続く第2部は、各学部・学科の先生が、各保護者に対して学生一人ひとりの状況を説明する個別面談の時間。成績表や時間割などの資料を基に、各自の成績や学生生活、課外活動、進路などについて話し合う。

また、「教務・留学相談」や「学生・就職相談」のコーナーが設けられ、担当の職員に話を聞くこともできる。

会の最後を飾る第3部は、おいしい料理を囲んでの懇親会。保護者同士の会話はもちろん、教員や職員とざっくばらんな話ができる時間となっている。

大学の現状は…？ 今年度の発表より

今年度、7会場で発表された内容をまとめる。

●キャリア教育

1年次から将来のキャリアデザインの構築に向けたカリキュラム（PDP）を導入するなどきめ細かい進路指導を行っている。また、就業体験をするインターンシップの機会を企業と連携して設けている（本紙8面参照）。

就職に強い大学を目指して、より実践的、実学的な教育を行っている。就職の際に有利に働く資格取得の支援、リテラシー教育、課題探求型プログラム、産学連携プログラムなどを導入。他大学に負けないサポートを行っている。

●就職実績

2008年3月卒業生の就職率（就職希望者のみ）は90・2%と、前年より伸びている。今後ますます高めていきたい。

●体育会

体育会に所属するサッカー、ヨット、空手道の各部が確実に実力をつけ、成績を伸ばしている。

●学生支援

大学になじめない、友だちができない、修学のことで悩んでいる、生活上でトラブルが発生したなど、学生は大学生活の中で様々な悩みを抱えている。大学は、そうした学生たちからの自発的な相談を待っているのではなく、教職員の方から働きかけ、学生たちの悩みに早期に気付き、関係部署や保護者などと連携を取ってより良い解決を目指している。

北陸地区教育懇談会（新潟） 9月14日（日）

今年度の最初の開催となったのは北陸地区で、9月14日（日）に新潟県新潟市内のホテルで実施された。大学からは小泉允胤副学長をはじめ林亜夫不動産学部長、草野健HT学部長をはじめとする教職員と、保護者、教育後援会役員を含め約40人が参加した。

個人面談を担当した不動産学科の斉藤千尋先生は、「どの方も、果たして4年間で卒業できるのか、そして卒業後の進路について関心を持っているようでした。学生たちを真剣に心配する様子に接し、教師としてできるだけのことはやりたいと思いました」と話していた。

参加者の感想

●毎年来ています。皆さんのお話を伺って、大学のことや子どもの様子がよくわかりました。小泉副学長の就職の話がよかったです。子どもと話をするときの参考になります（英米語学科2年）

●3回目の参加です。1、2年のころと違って、具体的に知りたいこと、相談したいことがでてきて、先生にもいろいろ話を聞きました。離れていると大学の様子もわからないので、よい企画だと思います。（HT学科3年）

●先生方にはわざわざ浦安から来ていただいて感謝しています。初めての参加で雰囲気がわからず不安でしたが、アットホームでいい会でした。来年も参加したいと思います。（英米語学科1年）

活動状況について

教育後援会会長　仲村　務

明けましておめでとうございます。会員の皆さまにおかれましては、新年をいかがお迎えでしょうか。

まず、私ども浦安キャンパス教育後援会では、前半の活動として①創立20周年記念事業（記念誌の発行、大学への屋外ステージ寄贈ほか）の実施、②全国7会場での地区教育懇談会の開催、③対象を1・2年生まで拡大した就職懇談会の開催、④海外大学視察を通した留学中の学生からの声の吸収、⑤サマーキャンプ・学園祭・新入生歓迎会等を通した学友会や留学生の意向吸収、⑥広報誌「潮風」の内容充実、⑦地区宅建協会との情報連携、⑧皆さまにご協力いただいた保護者アンケート結果を踏まえた大学との各種懇談会や都度の働きかけ等を実施して参りました。特に、地区懇談会の開催会場の見直しと関東地区での活発化に今後とも力を注いでいく必要性を感じています。

さて、今月から後半の活動が始まります。日下の情勢として、昨年のサブプライムローン問題発覚以降、欧米金融機関の資産劣化で経済の血液であるお金が回らず、雇用不安と消費減退が進んでいます。わが国についても海外需要の減退と急激な円高基調の影響を受け景気悪化が続いており、このままでは再び企業活動の国内空洞化が進むのではないかとの懸念も示され始めています。日経平均株価が8000円を大きく割り込んだ昨年9月の第3回役員会では、2010年（現3年生）以降の就活は相当厳しくなるだろうと心配する声が上がっていましたが、残念ながら現実のものになってきています。ただ、逆にここで就活に頑張ることができれば明海大学は更にランクアップが可能となります。会員の皆さまの8割は「就職活動への支援」が教育後援会で今後も力を入れてほしい活動である、とお考えです。したがって、後半の最も重要な取り組みとして、前半期にも増して「就職対策への様々な形での支援」を行いたいと考えています。第二に、できるだけ多くの学生が、1～2年の早いうちから各種資格取得や留学等の体験ができる取り組みへの支援や、学生一人ひとりの個性を伸ばし大きく成長してもらうために必要な肌理の細かい指導を行っていただけるよう少人数教育への支援を行いたいと考えています。第三に、ホームページの容量と内容を充実させることにより、教育後援会の奨学金制度、契約厚生施設利用制度、住宅相談等、保護者のためになる各種情報の提供を行って参りたいと考えています。

引き続きご支援・ご協力のほど宜しくお願いします。

CONTENT

4～5頁　新春座談会
「各学部の現状と今後の展望を語る」
6～7頁　キャンパスめぐり
8頁　インターンシップのすすめ

※題字「潮風」は初代理事長の故・宮田慶三郎氏によるものです

※HT…ホスピタリティ・ツーリズムの略

関東地区教育懇談会（2年次）

11月29日（土）

▲安井学長

11月29日（土）、2年生の保護者を対象とした関東地区教育懇談会が明海大学浦安キャンパスで開催された。実質的に3年生から始まる就職活動を前に、学生の成績や生活態度を知る貴重な機会となった。

仲村務教育後援会会長は挨拶の中で「就職を取り巻く状況が厳しいことは、皆さんもご存じのとおり。そこで、6月の就職懇談会は、これまでの3年生に加え、1、2年生の保護者も参加できるようにしました。学生は、就職活動中は視野が狭くなりがちら。そこは保護者が社会経験を活かし、広い視野でアドバイスしてほしい」と話した。

安井利一学長は「この4月に就任し、まだ手がまわらないこともあるが、教育後援会からも意見をいただき、明海大で学ぶことができてよかったと思ってもらえるような大学にしたい」と挨拶した。

全体会の後、外国語学部英米語学科の山岸勝榮教授による講演会が行われた。

午後からは体育館で個別面談。成績表の見方や、講義への出席状況などを担当教授が保護者に説明していた。

参加者の感想

●栃木から参加しました。一人暮らしなので、不安があったが、先生とお話させていただき不安が解消しました。（HT学科）

●学校のことは何も話さないので親としては心配。面談では今後の単位のとり方などとも指導いただいた。明海大ならではの、きめ細やかさを感じた。（経済学科）

●短期留学を考えている。安全面などが心配だったが、面談で細かい話を聞いて安心した。英語力強化には長期留学もいいのでは、と勧められるなど、色々な情報が得られて良かった。（英米語学科）

●履歴書の書き方など、就職活動の具体的な内容の話を聞くことができた。大学の先生と直接話すことができて良かった。（不動産学科）

関東地区教育懇談会

信州地区教育懇談会（長野）

9月28日（日）

信州地区教育懇談会は9月28日（日）に長野県長野市内のホテルで行われた。参加した保護者は13人と他会場に比べると少ないが、長野県出身の在校生は約40人なので、参加率はかなり高く、保護者の熱心さが感じられる懇談会となった。

この日は信号機トラブルで新幹線の運転が見合わされ、教職員らが東京駅で足止めされるというハプニングが起きた。幸い、教育後援会の福山洋州課長、HT学部の山下東子教授は定刻にスタートし、学生支援課の鈴木武夫事務長、学部長と経済学科の草野健学科長が会場に到着していたため、会場に到着した。

信州地区教育懇談会は9月28日（日）に長野県長野市内のホテルで行われた。参加した保護者は13人と他会場に比べると少ないが、長野県出身の在校生は約40人なので、参加率はかなり高く、保護者の熱心さが感じられる懇談会となった。

この日は信号機トラブルで新幹線の運転が見合わされ、教職員らが東京駅で足止めされるというハプニングが起きた。幸い、教育後援会の福山洋州課長、HT学部の山下東子教授は定刻にスタートし、学生支援課の鈴木武夫事務長、学部長と経済学科の草野健学科長が会場に到着していたため、会場に到着した。

▲小泉副学長

10月13日（祝）、東北A地区教育懇談会が盛岡市内のホテルで行われた。三連休の最終日にもかかわらず、岩手県内はもちろん、青森県、秋田県、宮城県と遠方からも保護者が集まり、小泉允圀副学長をはじめとする教職員、教育後援会役員ら約50人が参加した。

個別面談で保護者から成績に関する相談を受けた林亜夫不動産学部長は、「今の学生は継続して勉強させることが難しい。コツコツとやらせるためには、教師の側も根気強い指導が必要」と話していた。

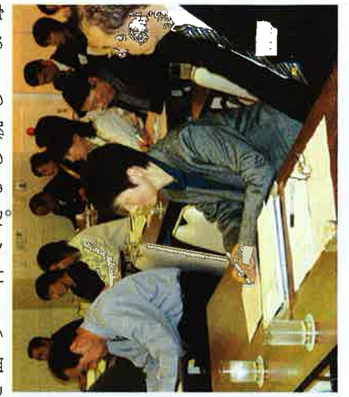
2005年にスタートし、今年度初めての卒業生を送り出すHT学部の草野健学部長は懇親会で、1期生の就職活動について触れ、「学生たちが目標としていた、航空会社、旅行会社、ホテルなどから内定をいただいたという報告が続々と入っています」と報告。会場からは大きな拍手がわいた。

参加者の感想

●先生から朝早い授業に出ていないようだと指摘されましたが、具体的に教えていただいたので、朝電話をしてみようとか、指導すべきポイントが見えました。一人ひとり親身になって心配してくださっているのがわかりました。親としては安心です。（不動産学科・1年）

●今日は青森から来ました。個人面談を担当してくれた先生は、今現在のことだけでなく、1年生の時のことからは把握して、適切なアドバイスをいただきました。大学に入っても保護者会があると聞いて少し驚きましたが、参加してよかったです。もっと早くから来ていればよかったと思います。（不動産学科・3年）

●ニートやフリーターが社会問題となっていますが、この大学は本気で就職のサポートしてくれていると感じました。（HT学科・1年）



東北A地区教育懇談会（盛岡）

10月13日（日）

▲小泉副学長

10月13日（祝）、東北A地区教育懇談会が盛岡市内のホテルで行われた。三連休の最終日にもかかわらず、岩手県内はもちろん、青森県、秋田県、宮城県と遠方からも保護者が集まり、小泉允圀副学長をはじめとする教職員、教育後援会役員ら約50人が参加した。

個別面談で保護者から成績に関する相談を受けた林亜夫不動産学部長は、「今の学生は継続して勉強させることが難しい。コツコツとやらせるためには、教師の側も根気強い指導が必要」と話していた。

2005年にスタートし、今年度初めての卒業生を送り出すHT学部の草野健学部長は懇親会で、1期生の就職活動について触れ、「学生たちが目標としていた、航空会社、旅行会社、ホテルなどから内定をいただいたという報告が続々と入っています」と報告。会場からは大きな拍手がわいた。

参加者の感想

●先生から朝早い授業に出ていないようだと指摘されましたが、具体的に教えていただいたので、朝電話をしてみようとか、指導すべきポイントが見えました。一人ひとり親身になって心配してくださっているのがわかりました。親としては安心です。（不動産学科・1年）

●今日は青森から来ました。個人面談を担当してくれた先生は、今現在のことだけでなく、1年生の時のことからは把握して、適切なアドバイスをいただきました。大学に入っても保護者会があると聞いて少し驚きましたが、参加してよかったです。もっと早くから来ていればよかったと思います。（不動産学科・3年）

●ニートやフリーターが社会問題となっていますが、この大学は本気で就職のサポートしてくれていると感じました。（HT学科・1年）

東海地区教育懇談会（静岡）

11月9日（日）

11月9日（日）に東海地区教育懇談会が静岡市内のホテルで開催された。この日は、小泉允圀副学長をはじめ林亜夫不動産学部長、草野健HT学部長、原口庄輔外国語学部長ら教職員が駆けつけ、東海地区在住の保護者、教育後援会役員ら約40人が参加した。

個人面談を担当した中国語学科の加藤晴子准教授は、「留学が決まっている保護者から相談がありました。現地での生活や学習について想像がつかず心配されているようだったので、できるだけ具体的な話をしてアドバイスをしました」。また、日本語学科の佐々木先生は「教室で知っている学生のご両親から話を伺って、また違う一面が見えてきました。今後の指導の参考になります」と話していた。

参加者の感想

●学業のことが心配です。先生からは具体的に勉強の進め方、ポイントをアドバイスしていただきました。とても参考になりました。（英米語学科・2年）

●4年生で来年卒業です。なんとか希望する業界に就職も決まり、感謝しています。この会はとてもいい会なので、もっと参加したかったです。（HT学科・4年）

●4年生です。サークルに打ち込んできて、友達もたくさんできて、楽しい学園生活を送ったようです。明海大学も浦安も気に入っていました。就職がなかなか決まらなくてちょっと心配しましたが、なんとか無事卒業できそうです。（不動産学科・4年）

東北B地区教育懇談会（福島）

10月5日（日）

10月5日（日）、東北B地区懇談会が福島市内のホテルで行われた。会場には、保護者、教育後援会役員と、大学側から小泉副学長を始め草野HT学部長などの教職員約40人が集まった。

個別相談の時間、保護者からは、「成績表の見方がよくわからないが、これでよいのか」、「子どもも単位は大丈夫か」など多くの質問が寄せられ、どのテーブルでも熱心な話し合いが行われていた。

参加者の感想

●今回、実際に子どもが授業を受けている先生とお話ができてよかった。インターンシップについても、興味があれば何年生でも応募できます。早く始めればそれだけチャンスも多いですよ」とのアドバイスをいただいたので、子どもにもどんどんチャレンジするようすすめたいと思います。（英米語学科・2年）

●進級に必要なTOEICの点数が心配で相談しました。現在、総合旅行業務取扱管理者の勉強もしているので大変だと思うが、頑張ってほしいです。（HT学科・2年）

●大学の就職支援に対する体制がどうなっているのかが分かってよかった。（不動産学科・2年）

九州地区教育懇談会（福岡）11月23日（日）

11月23日（日）、九州地区教育懇談会が福岡市内のホテルで開催され、17人の保護者と10人の教職員が参加した。

全体会では、釘崎徹副会長が「教育後援会活動へのお礼と、保護者として大学についての諸々の心配なことを率直に先生方に相談していただきたい」と挨拶した。

個人面談では、各学部長による熱心な指導、助言に対して安堵した様子が見られ、懇親会でも各学部長のお話に明るい笑い声が聞かれた。

最後に、卒業となる4学年の保護者から「4年間楽しく勉学でき、卒業できるようなので安堵しました。多くのすばらしい先生方に心から感謝をしたい」の言葉が述べられ、閉会となった。

参加者の感想

●遠く離れているので、教育懇談会を九州で開いていただくことで大学がより身近に感じられます。これからも続けていただけたらと思います。（経済学科・3年）

●3年生になると就職活動で子どもが悩んだりしているので、親としても少しでも子どもの励ましや相談にのってあげられるように、親にもアドバイスをもらえたら助かります。（HT学科・3年）

※各地区教育懇談会の様子は、教育後援会のホームページ上でも詳しくご紹介しています。
http://www.meikai-koenkai.com/

地区懇談会 アンケート

Q1 学生の学年は？

- 1年 ……23人
- 2年……132人
- 3年 ……32人
- 4年 ……6人
- 無回答 ……6人

Q2 地区懇談会への参加は今回で何回目ですか？

- 1回目 …33人
- 2回目 …31人
- 3回目 …20人
- 4回目 ……1人

Q3 会場までの所要時間は？

- 30分以内 ……20人
- 30分～1時間 ……52人
- 1～2時間 ……72人
- 2時間以上 ……45人
- 無回答……10人

Q4 大学の近況報告について特に関心のある内容は？（複数選択）

1位 就職について ……81%（161人）
2位 教育の取り組みについて ……40%（80人）
3位 学部の様子……35%（70人）

Q5 本紙「潮風」で特に関心のある内容は？（複数選択）

1位 大学の近況報告 ……61%（121人）
2位 学生の就職会社名 …55%（110人）
3位 進級・卒業のこと……46%（91人）

Q1…東北A・B、北陸、信州、関東、東海、九州／回収数199人
Q2…東北A・B、北陸、関東、東海、九州／回収数85人
Q3～5…東北A・B、北陸、信州、関東、東海、九州／回収数199人

Interview

どんな社会でも通用する『教養』を

不動産学部長・不動産学研究科長　林　亜夫教授

はやし・つぐお／昭和23年神奈川県生まれ。東京工業大学大学院卒。工学博士。社会工学、都市計画が専門。著書に『都市・地域経営』『都市システム工学』（共著）等。

不動産学部のある卒業生が、就職先でパソコンのエクセルを使ってちょっとした仕事をしたところ、上司に驚かれたという。

林亜夫教授率いる同学部では、パソコンを取り入れて実践的な授業を行っている。この卒業生にも自然と力が身についていたのだ。

しかし、「即戦力となる人材育成が目標ですか？」との問いに「いいえ、大切にしているのは基礎基本です」と答える林先生。「時代が変われば必要な技術も変わる。どんな時代、どんな経済環境にも対応できる力をつけるには、技術だけでなく幅広い知識が大切なのです。それを私は『教養』と呼んでいます」

不動産学部で扱う分野は、法律や経済、建築や土木、データを分析するためのIT技術と、かなり幅が広い。「不動産学部は受験界では文系に位置付けられているので、新入生は授業が始まると驚くようです。学生には徹底した訓練と試験をしていますので…。四年間で、体系づけられた基礎的な知識を身に付けてもらう。これが環境の変化に耐えられる適応力になり、生きる力となるのです」

学生に求めるものが多過ぎるのでは？と尋ねると「不動産学に必要なのは、法律や経済などの専門家になることではなく、それらを不動産にとっての知識として身につけること。そのため、我々は教科書作りから手がけるんですよ」。

林先生自身、学生時代は数学・物理を学ぶ一方、社会科学についても学ぶなど多面的な教育を受け、そこで得た知識が都市計画という専門分野に役立った。

「いつの世でも不動産取引がなくなることはない。情報を集めて分析する、そのとき『教養』は必ず役に立ちます。適応力があれば、いつでも活躍できると信じています！」

よりよい学生生活のために！

2008年度 明海大学浦安キャンパス 学友会サマーキャンプ

▲開会式の様子

2008年9月2日～3日に栃木県日光市で恒例のサマーキャンプが開かれた。

1日目の朝、参加者らは大学をバスで出発。到着後に行われた開会式で学友会の田中翔馬会長は「サマーキャンプを通して大学がより発展すればと思っています。活発な発言を期待します」と挨拶。安井利一学長からも「私も皆さんの意見を尊重していきたい」と熱い期待が伝えられた。

次いで教育後援会仲村務会長から「どんなことが皆さんのためになるかを考えるうえで、このサマーキャンプでの意見を尊重しています。今年は浦安の地域住民に対して何ができるかも語り合ってほしい」、同窓会の尾崎知伸理事からも「活発に意見を出していただき、同窓会として支援できることがあれば考えていきたい」との挨拶があった。

その後は16班に分かれての分科会。『施設について』『課外活動の在り方と今後について』などの4つのテーマに従い、活発な議論が交わされた。

2日目には、その報告会があり、「エレベータが混むので上層階専用のものがほしい」、「学生目線のメディアがほしい」、「授業で留学生と日本人とのペアを組んで研究・発表などしてはどうか」、「クリーンキャンペーンの意義を徹底して広めてはどうか」などの提案が出された。

閉会式で佐々木康史学生部長は、「いずれも重要な事柄。学生の生の声を聞くことができたので、教職員も真摯にこれを受け止め、開かれた明海大学の構築に活用できれば」と語った。

※詳しい様子は教育後援会HP上で紹介しています。

海外大学留学視察

豪州・セントラルクィーンズランド大学を視察して

教育後援会幹事　栗本真弓

今回の海外大学・留学視察に向けて4回のオリエンテーションがあり、セントラルクィーンズランド大学について、また研修参加の諸注意及び安全管理などの講習に、学生と共に参加しました。

8月の夏真っ盛りの日本から、冬の時期であるオーストラリアに向けて成田を出発。約9時間のフライトののち、ブリスベンに到着しました。そこからまた大学のあるロックハンプトンへと飛行機を乗り継ぎ、やっとの思いで目的地に到着しました。

ロックハンプトンは冬の季節とはいえ、日本の秋のような気候でとても過ごしやすいところでした。しかし、昨年は例年にない干ばつにみまわれたため、家庭での水の使用量が規制され、使いすぎると罰金まで課せられるという状況のようでした。その中で学生たちはシャワー時間を5分と決められ、とても不便な思いをしたようです。

さてキャンパス内ですが、敷地が大変広くのんびりした雰囲気の大学内を、長期留学中の明海大学の女子学生に案内してもらいました。緑の多い植物園のようなところにある図書館や、ブッフェスタイルの食堂、カフェテリア、大学のロゴ入りグッズや文房具、本などを取り揃えたショップ、そしてスポーツ施設などたくさん見学させていただきました。

このようなとても広い敷地内ですが、安全面にも配慮されており、ナンバリングされたセキュリティーの看板があり、そこには警備員につながる電話が設置されていて、トラブルが生じた場合、すぐ利用できるようになっているとのことでした。

次に現地学生が日本語を勉強しているところを見学し、授業に飛び入り参加させてもらいました。受講している学生たちは、日本への留学に意欲をみせていました。

いよいよ次は短期留学している明海大生の授業の見学です。学生たちはオーストラリアの主要産業についてのプレゼンテーションをグループに分かれて行っていました。流暢な英語でしっかり説明している学生もいれば、がんばれと思わず声援したくなる学生もいました。

このように学生たちは授業で奮闘し、またホームステイ先での家族との交流や意思の伝達に戸惑いながらも、まさに異文化の体験を通して時間の経過とともに慣れ親しんでいくようです。「帰国が近くなるころにはもう少し滞在したいと思うようになる」と、現地で帰国間近の他校の学生が言っていたのにもうなずけます。

最後に、学生たちがこの体験を将来のために活かし、「国際未来社会で活躍しうる有為な人材」となって活躍していってもらいたいと思います。そのためにも1人でも多くの学生がこのような体験を低学年のときにできるようにしたいなと思いました。

研修の概要

日　程／2008年8月10日～15日
訪問先／セントラルクィーンズランド大学（オーストラリアクイーンズランド州ロックハンプトン）
参加人数／仲村会長ほか4名